

潮汐

その赤い服は彼に似つかわしく思われた

無表情の蔭に成長する肉体
逃走に追いかける自己という部屋
青汁のような苦い生を飲むという意識
得体の知れぬ鼓動、鼓動、鼓動の継続

私は人間を見ているのだろうか
それとも、人間のいる世界を見ているのだろうか

空間の拡大、縮小が同時に生じること
取得と喪失が同時に起きること
腕、脚、そして胸、さらには掌、指
分裂と増殖によって自己を引き伸ばされるとき

まるで二日酔いのように潮汐の周期が大きく揺らめく

彼には赤い服が似つかわしい

(2001.9.24)